

## 卒業後の生活を豊かにしていくために ～横手支援学校の進路指導について～

進路指導主事 佐々木 祐

進路指導とは、単に学校卒業後の進路先を決定することではなく、「生徒一人一人が、卒業後に社会の一員として、どのように生きていくか」「自分の人生を、より豊かに生きていくために必要な力は何か」などを考え、学校卒業後の生活を決めていくことを指導・支援することです。社会の中で自分の役割を果たしたり、自分らしい生き方を実現したりしていくキャリア教育の一環としても重要です。

本校では、生徒の進路や自立に対する関心や意欲の向上を図りながら、「日常生活や職業生活に関わる習慣」を確立したり、「生徒の自己理解」の力を伸ばしたりできるよう、様々な教科や学校生活全般で進路指導に取り組んでいます。

最終的に進路を決定するのは、生徒本人と保護者です。学校は「生徒と保護者が、将来どんな生活をした」と希望しているか、考えているか」などを知り、家庭や関係機関と役割分担しながら支援しています。

以下は、高等部の進路指導に関する具体的な内容です。

### 1 進路指導に関する主な内容

- (1) 進路に関する学習＜「作業学習」「生活単元学習」「職業科」「家庭科」など＞
- (2) 職場体験＜産業現場等における実習（前期、後期）、施設見学、利用体験など＞
- (3) 進路相談＜個別の教育支援計画に基づいた面談、移行支援ネットワーク会議、個別ケース会議など＞  
これらを積み重ねて、卒業後の進路について検討していきます。

### 2 高等部卒業後の自立と社会参加に必要な能力＜例＞

- (1) 意欲（活動へ参加する喜び、活動に対する真剣な姿勢）
- (2) あいさつや礼儀（元気、明るさ、返事、素直さ、言葉遣い）
- (3) 服装、身支度（身だしなみ、準備、衣服の調節、早さ）
- (4) 丈夫な体、体力（手指の力、調整力、腕力、敏捷性、脚力）
- (5) 健康管理、衛生（体調管理・維持、清潔な身なり）
- (6) 協調性（感謝、対応、協力）



### 3 進路決定までの各学年での取組

|    |  |
|----|--|
| 1年 | (生徒・保護者)<br>・どんな進路先があるのかを知る。（福祉事業所や一般事業所など）<br>・療育手帳や身体障害者手帳、精神福祉保健手帳の取得について検討する。<br>・市町村の福祉サービスを知る。   |
| 2年 | (生徒・保護者・学校)<br>・本人の希望や適性をしっかり見極め、卒業後の方向性を検討し、実習を行う。<br>・一つに絞らず、複数の選択肢を検討する。  |
| 3年 | (生徒・保護者・学校)<br>・本人の希望や適性と、進路状況（社会情勢、施設や福祉サービス事業所の入所・通所状況等）を考えながら進路先を具体的にしぼる。<br>・進路決定のめどがつくまで随時実習を行う。<br>・卒業後の生活を支援する組織や関係機関等を確認する。<br>(生徒・保護者)<br>・施設入所、通所希望者は市役所や役場の福祉担当に申請手続きをする。 |

## 各学部の「キャリア教育」の実践から

### 小学部

#### ～社会参加に向けての基礎づくり～

小学部の6年間は、将来の自立と社会参加に向けての基礎づくりの時期と捉えています。具体的な取組の一つとして、「地域資源」を活用し、校外学習を行っています。公共施設や公共の乗り物の利用の仕方、マナーについて、実際の体験を通して身に付けていけるよう学習しています。これらの学習は、小学部の時期に育てたい挨拶や返事など将来必要な力についても学べるよい機会と捉えています。

このような学びの積み重ねを、将来の社会参加に結び付けたいと考えています。



### 中学部

#### ～自分の思いを伝えることを大切に～

中学部では、「なりたい自分シート」を作成し、活用しています。このシートは、自分の目標を中心に置いて、そのために学校や家庭で何をするのかを記入していきます。年間を通して目標設定や途中経過の確認、評価の時間を定期的を設定しており、生徒が教師や家族に自分の思いを伝える機会となっています。

シートを活用しながら自分の思いを伝えて対話を積み重ねることで、目標や目標に向かうための方法が具体的になり、生徒主体で行動する姿が見られるようになっていきます。

### 高等部

#### ～「横手が舞台」地域に根ざしたキャリア教育の展開～

高等部は家庭や地域、企業等との連携を図りながら作業学習や実習等を展開しています。作業学習では、木工班、縫製班が地域の専門家を招いて技術指導を受けたり、農耕班が通年で果樹園のりんご栽培実習を行ったりしています。また、職業の授業では、就労した卒業生を招いて社会人の生活について学んだり、地元実習の事前事後学習を行ったりしています。

「横手が舞台」を合い言葉とした地域資源を活用した学習を進め、体験的活動を蓄積していくことで社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力の育成を目指しています。

